



TITLE:

# Foliated Bundlesの接続について (Foliationsと $C^{\infty}$ -写像)

AUTHOR(S):

鈴木, 治夫

---

CITATION:

鈴木, 治夫. Foliated Bundlesの接続について (Foliationsと $C^{\infty}$ -写像). 数理解析研究所講究録 1977, 286: 113-121

ISSUE DATE:

1977-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/106111>

RIGHT:

## Foliated bundlesの接続について

北大 理学部 鈴木 治夫

1. Foliated principal  $GL_r$ -bundles における, transverse projectable connections の構成と, それによって定まる 2 次特性コホモロジー類の, 一つの性質について考察する.

"微分可能"は  $C^\infty$  をいぬるものとし, 微分可能多様体はすべてパラコンパクト, ハウスドルフであると仮定しておく.

$\mathcal{F}$  を  $n$  次元微分可能多様体  $M$  の上の, codimension  $q$  の foliation とする.  $T(M)$  を  $M$  の接ベクトル・バンドル,  $F \subset T(M)$  を,

$\mathcal{F}$  の leaves に接するベクトルから成る, 部分ベクトル・バンドルとする. Foliation  $\mathcal{F}$  をもつ多様体  $M$  を  $(M, \mathcal{F})$  とかき,

$E(M, p, GL_r)$  を  $(M, \mathcal{F})$  の上の foliated principal  $GL_r$ -bundle とする.

$M$  はパラコンパクトだから,  $E(M, p, GL_r)$  の上にリーマン接続が存在する. とくに, 剰余ベクトル・バンドル  $V_T = T(M)/F$  の

Bott 接続 [1] により,  $V_T$  の frame bundle  $E(V_T)$  は,  $(M, \mathcal{F})$  の上の foliated principal  $GL_r$ -bundle ( $q=r$ ) となる. これを  $E_T(M, p_T, GL_r)$

とかく. Bott 接続は, その transverse connection となる [2].

$M_1$  を微分可能多様体,  $f: M_1 \rightarrow M$  を  $\mathfrak{F}$  に transverse な微分可能写像,  $\mathfrak{F}_1 := f^*\mathfrak{F}$  を,  $f$  によって  $\mathfrak{F}$  から誘導される,  $M_1$  の上の co-dimension  $q$  foliation とする.  $f$  による  $E(M, p, GL_r)$  の誘導バンドルを  $f^*E(M, p, GL_r)$  とし,  $f$  に対応する principal bundle map を  $\bar{f}: f^*E(M, p, GL_r) \rightarrow E(M, p, GL_r)$  とかく.  $f^*E(M, p, GL_r)$  は,  $(M_1, \mathfrak{F}_1)$  の上の foliated principal  $GL_r$ -bundle  $E(M_1, p_1, GL_r)$  となることが容易にわかる.

$WO_{q,r}$  を differential algebra:  $R[c_1, c_2, \dots, c_s]/(\deg > q) \otimes \wedge(h_1, h_2, \dots, h_l)$ , ( $R$  は実数体),  $s := \min(q, r)$ ,  $l := \max\{2m+1 \leq r\}$ ,  $d(c_i) = 0$ ,  $d(h_j) = c_j$  ( $j \leq s$ ),  $q < l$  の場合,  $d(h_j) = 0$  ( $j > s$ ) とする.  $M$  上の複素数係数の微分形式環を  $A^*(M)$  とかく.  $M$  上の principal  $GL_r$ -bundle  $E$  の接続  $\theta$  の曲率形式に対し,  $GL_r$  の Lie 環  $\mathfrak{gl}_r$  の, 次数が  $q$  より大きい任意の不変多項式の値が, 0 となるならば,  $\theta$  とリーマン接続  $\theta^0$  とのワッファイン結合を用いることにより, 一般化された Bott の differential algebra map,  $\lambda_{q,r}(\theta): WO_{q,r} \rightarrow A^*(M)$  が構成され, コホモロジー準同形,  $\Delta_{q,r}(\theta): H^*(WO_{q,r}) \rightarrow H_{DR}^*(M; \mathbb{C})$  ( $H_{DR}$  は de Rham コホモロジー,  $\mathbb{C}$  は複素数体) が得られる.  $E$  が  $(M, \mathfrak{F})$  上の foliated principal bundle  $E(M, p, GL_r)$  で,  $\theta$  がその transverse connection ならば,  $\Delta_{q,r}(\theta)$  は,  $\theta$  のとり方によらずに定まる. ([1], [2] 参照). これは,  $(M, \mathfrak{F})$  の  $E(M, p, GL_r)$  の

特性準同形とよばれるものである。 とくに,  $WO_q := WO_{q,0}$  とおき,  $E = E_r(M, p, GL_r)$  にとるとき,  $\Delta_{q,r}(\theta)$  は, Bott の特性準同形  $\Delta_q(\theta): H^*(WO_q) \rightarrow H_{DR}^*(M; \mathbb{C})$  となる.  $WO_q$  のコサイクルを  $\gamma$  とかく.

$M$  を  $q=2r+1$  次元微分可能多様体,  $\theta$  を  $M$  の上の codimension  $r$  の foliation とし,  $\mathcal{F}(\theta)$  を submersion  $f: M_1 \rightarrow M$  による,  $M_1$  の foliation とする.

**定理**  $\mathcal{F}$  が non-trivial な Bott の  $q$  次元 2 次特性コホモロジー類,  $\Delta_r(\mathcal{F})[\gamma] \neq 0$  をもち,  $f^*: H^*(M; \mathbb{R}) \rightarrow H^*(M_1; \mathbb{R})$  が injective ならば,  $(M_1, \mathcal{F}(\theta))$  の上の foliated principal  $GL_r$ -bundle  $E_0(M, p, GL_r) := f^*E(\mathcal{F})$  において, transverse projectable connections  $\omega^0$  および  $\omega$  が存在し,  $\gamma$  に対する 2 次特性コホモロジー類が, それぞれ  $\Delta_{[0],r}(\omega^0)[\gamma] = 0$  および  $\Delta_{[2],r}(\omega)[\gamma] \neq 0$ ,  $([2] = r)$  となる.

$\Delta_r(\mathcal{F})[\gamma]$  として, 例えば, Godbillon-Vey コホモロジー類,  $\Delta_r(\mathcal{F})[c_1 \eta]$  をとることができる, submersion  $f$  として,  $M$  のベクトル・バンドルの射影写像をとることができる.

2. 一般に,  $\theta$  に transverse な微分可能写像,  $f: M_1 \rightarrow M$  による誘導バンドル,  $f^*E(M, p, GL_r) = E(M_1, p, GL_r)$  において, 次の補題が成立.

**補題 2.1.**  $\theta$ ,  $\theta^0$  および  $\omega$  を, それぞれ,  $(M, \theta)$  の上

の  $E(M, p, GL_r)$  の transverse, リーマンおよび transverse projectable connection [2] とするとき,  $\tilde{f}^*\theta$ ,  $\tilde{f}^*\theta^0$  および  $\tilde{f}^*\omega$  は, それぞれ  $(M_1, \mathcal{F}_1)$  の上の  $E(M_1, p_1, GL_r)$  の transverse, リーマンおよび transverse projectable connection となる.

証明  $\mathcal{F}_E \in \mathcal{F}$ ,  $\mathcal{F}$  の  $E(M, p, GL_r)$  におけるリフトとし,  $F_E$  を  $\mathcal{F}_E$  の leaves の接ベクトルから成る,  $T(E(M, p, GL_r))$  の部分ベクトル・バンドルとする.  $\mathcal{F}_{1,E} := \tilde{f}^*\mathcal{F}_E$  は,  $E(M_1, p_1, GL_r)$  における  $\mathcal{F}_1$  のリフトであり, 対応する部分ベクトル・バンドルを  $F_{1,E}$  とかく.

$e \in E(M_1, p_1, GL_r)$  に対し,  $X \in F_{1,E}|_e$  ならば,  $\tilde{f}_*X \in F_E|_{\tilde{f}(e)}$  だから,  $\tilde{f}^*\theta(X) = \theta(\tilde{f}_*X) = 0$  となる. これは,  $\tilde{f}^*\theta$  が transverse connection であることを示している.  $V$  を  $E(M, p, GL_r)$  に対応するベクトル・バンドル,  $v_i$  を  $V$  の局所基底ベクトル場とし,  $w_i$  を  $v_i$  に対応する  $\tilde{f}^*V$  の局所ベクトル場  $(w_i(y) = (v_i(\tilde{f}(y)), y), y \in M_1)$ ,  $i = 1, 2, \dots, r$  とする.  $\theta^0$  に対応する  $V$  の接続を  $\nabla^0$  とするとき,  $M_1$  の局所接ベクトル場  $Y$  に対して,

$$\begin{aligned} (\tilde{f}^*\nabla^0)_Y \langle w_i, w_j \rangle (y) &= \nabla_{\tilde{f}_*Y}^0 \langle v_i, v_j \rangle (y) \\ &= \langle (\nabla_{\tilde{f}_*Y}^0 v_i, y), (v_j(\tilde{f}(y)), y) \rangle + \langle (v_i(\tilde{f}(y)), y), (\nabla_{\tilde{f}_*Y}^0 v_j, y) \rangle \\ &= \langle (\tilde{f}^*\nabla)_Y w_i, w_j \rangle (y) + \langle w_i, (\tilde{f}^*\nabla)_Y w_j \rangle (y). \end{aligned}$$

この関係式は, 接続の条件の下で保存されるから,  $\tilde{f}^*V$  の任意のベクトル場  $s_1, s_2$  に対して成り立つ.  $E$  の任意の局所 section  $s$  と, これに対応する  $\tilde{f}^*E$  の局所 section  $s'$  とあれば,

$s^*(f^*\theta^0) = f^*s^*\theta^0$  となり, したがって  $f^*\theta^0$  は,  $f^*V$  のリーマン接続に対応するから,  $E(M, p, GL_r)$  のリーマン接続となる.

$N$  を, 常に transverse な,  $M$  の  $q$  次元局所部分多様体とし,  $N$  の上  $N$  の  $r$  の  $r$  の局所 submersion を  $f$  とする.  $f$  は  $E(M, p, GL_r)$  の局所積構造の開集合  $U \subset M$  の上で定義されるとしてよい.

必要ならば,  $N$  をさらに小さくとり,  $M_1$  の中に微分可能  $q$  次元局所部分多様体  $N_1$  を見出し,  $f$  によって,  $N$  の上に微分位相同形に写されるようにすることが出来る. このとき,  $M_1$  の開集合  $U_1 \subset f(U)$  が存在し,  $f_{11} := (f|_{U_1}) \cdot f \cdot f|_{U_1} : U_1 \rightarrow N_1$  は,  $U_1$  における  $r_1$  の局所 submersion と出来るようにできる. あるいは,  $f \cdot f|_{U_1} = f \cdot f_{11}$ .

$E(M, p, GL_r)|_U \cong f^*E(M, p, GL_r)|_N$ ,  $E(M_1, p_1, GL_{r_1})|_{U_1} \cong f_{11}^*E(M, p, GL_r)|_{N_1}$  から,  $f$  および  $f_{11}$  の covering principal bundle maps,  $\bar{f} : E(M, p, GL_r)|_U \rightarrow E(M, p, GL_r)|_N$  および  $\bar{f}_{11} : E(M_1, p_1, GL_{r_1})|_{U_1} \rightarrow E(M, p, GL_r)|_{N_1}$  があるから,  $\bar{f}_{11} \cdot \bar{f}|_{E(M_1, p_1, GL_{r_1})|_{U_1}} = \bar{f} \cdot \bar{f}_{11}$  と出来る.  $E(U) := E(M, p, GL_r)|_U$ ,  $E(U_1) := E(M_1, p_1, GL_{r_1})|_{U_1}$  等とかくことにする.

$w|_{E(U)} = \bar{f}^*(w|_{E(N)})$  から,

$$\begin{aligned} \bar{f}_{11}^* w|_{E(U_1)} &= (\bar{f}|_{E(U_1)})^* (w|_{E(U)}) \\ &= (\bar{f}|_{E(U_1)})^* \cdot \bar{f}^* (w|_{E(N)}) \\ &= (\bar{f}_{11} \cdot \bar{f}|_{E(U_1)})^* (w|_{E(N)}) \\ &= (\bar{f}_{11} \cdot \bar{f})^* (w|_{E(N)}) \\ &= \bar{f}_{11}^* (\bar{f}^* w|_{E(N)}) \end{aligned}$$

となる。したがって、 $f^*\omega$  は  $(M_1, \mathcal{F}_1)$  の上の  $E(M_1, p_1, GL_r)$  の, transverse projectable connection である。証明終

$gl_r$  の不変多項式環  $\mathbb{R}[gl_r]$  とかく。実数体上の  $r \times r$  行列  $A$  に対し, 不変多項式  $c_i$  を,  $\det(I+tA) = 1 + \sum_{i=1}^r t^i c_i(A)$  ( $t$  は不定元) と定めるとき,  $I(gl_r) = \mathbb{R}[c_1, c_2, \dots, c_r]$  となることはよく知られている。  $\pi: M \times \mathbb{R} \rightarrow M$ ,  $\bar{\pi}: E(M, p, GL_r) \times \mathbb{R} \rightarrow E(M, p, GL_r)$  を自然な射影とする。  $E(M, p, GL_r)$  の接続  $\theta$  およびリーマン接続  $\theta^0$  に対し,  $\bar{\theta} := \pi^*((1-t)\theta + t\theta^0)$  ( $t \in \mathbb{R}$ ) とおく。  $\bar{\theta}$  は  $E(M, p, GL_r) \times \mathbb{R}$  の接続となる。  $\lambda(\theta), \lambda(\theta^0, \theta): I(gl_r) \rightarrow A^*(M)$  を,  $\lambda(\theta) := (\frac{1}{2\pi})^r \varphi_i(\omega)$  ( $\varphi_i$  は  $i$  次  $\pi$  不変多項式,  $\omega$  は  $\theta$  の曲率形式),  $\lambda(\theta^0, \theta)(\varphi_j) := \pi_* \lambda(\bar{\theta})(\varphi_j)|_{M \times [0, 1]}$ ,  $\pi_*$  は trivial bundle  $\pi$  の integration over the fibre と定める。

$d\{\lambda(\theta^0, \theta)(c_{2i-1})\} = \lambda(\theta)(c_{2i-1})$  ( $1 \leq 2i-1 \leq r$ ) が成立つ ([1], [2]) から,  $\theta$  の曲率形式に対して,  $I(gl_r)$  の  $\mathbb{R}$  より大きい次数の, 任意の多項式の値が 0 となるとき, differential map,  $\lambda_{k,r}(\theta): W O_{k,r} \rightarrow A^*(M)$  が,  $\lambda_{k,r}(\theta)(c_i) := \lambda(\theta)(c_i)$  ( $1 \leq i \leq \min(k, r)$ ),  $\lambda_{k,r}(\theta)(\varphi_j) := \lambda(\theta^0, \theta)(c_j)$  ( $j=1, 3, \dots, l$ ) によって定まる。とくに,  $(M, \mathcal{F})$  上の  $E(M, p, GL_r)$  の transverse connection  $\theta$  に対して, Bott の vanishing theorem により,  $\lambda_{q,r}(\theta)$  が定まる。補題 2.1 により,  $f^*\theta$  は  $(M_1, \mathcal{F}_1)$  の上の  $E(M_1, p_1, GL_r)$  の transverse connection となるから, 同様に  $\lambda_{q,r}(f^*\theta)$  が定まる。

補題 2.2.  $\lambda_{q,r}(f^*\theta)(c_i) = f^*(\lambda_{q,r}(\theta)(c_i)) \quad 1 \leq i \leq s,$

$$\lambda_{q,r}(f^*\theta)(\varphi_j) = f^*(\lambda_{q,r}(\theta)(\varphi_j)) \quad j=1, 3, \dots, l.$$

証明  $\rightarrow$  1式は, 直接の計算により容易に示される. 補題2.1により,  $f^*\theta^0$  がリーマン接続であることを注意する.

$\pi_1: M_1 \times R \rightarrow M_1$  を自然射影とすると, integration over the fibre の naturality [3, VII §5 PROP. VIII] により,

$$\begin{aligned} \lambda_{g,r}(f^*\theta)(c_j) &= \lambda(f^*\theta^0, f^*\theta)(c_j) \\ &= \pi_{1*}(\lambda(f \times id)^*\bar{\theta})(c_j) |_{M_1 \times [0,1]} \\ &= \pi_{1*}((\frac{f}{2\pi})^* c_j (f \times id)^* \Omega(\bar{\theta})) |_{M_1 \times [0,1]} \\ &= f^* \pi_{**}((\frac{f}{2\pi})^* c_j (\Omega(\bar{\theta})) |_{M \times [0,1]}) \\ &= f^*(\lambda(\theta^0, \theta)(c_j)) \\ &= f^*(\lambda_{g,r}(\theta)(c_j)), \end{aligned}$$

となるから,  $\rightarrow$  2式が得られる. 証明終

3. 定理の証明.  $\theta$  を  $(M, \mathcal{F})$  上の  $E_T(M, p, GL_r)$  の, transverse connection とする.  $f^*E_T(M, p, GL_r)$  は,  $(M_1, \mathcal{F}_1) = (M_1, f^*\mathcal{F})$  上の foliated principal  $GL_r$ -bundle で,  $E_T(M_1, p_1, GL_r)$  と一致する. 定理の仮定と補題2.2により,

$$[\lambda_{r,r}(f^*\theta)(\gamma)] = [f_* \lambda_{r,r}(\theta)(\gamma)] = f_* \Delta_r(\mathcal{F})(\gamma) \neq 0.$$

$f^*E(V_r)$  において, codimension  $g$  foliation  $\mathcal{F}(f)$  のリフトとして, submersion  $\bar{f}: f^*E(V_r) \rightarrow E(V_r)$  における foliation をとることにより,  $f^*E(V_r)$  は,  $(M, \mathcal{F}(f))$  上の foliated principal  $GL_r$ -bundle  $E_0(M, p, GL_r)$  となる.

$E_T(M, p, GL_r)$  上のリーマン接続  $\theta^0$ ,  $\mathcal{F}$  の transverse connection  $\theta$



をとり,  $\omega_0 = f^* \theta^0$ ,  $\omega_i = f^* \theta^i$  とおく.  $\omega^0, \omega$  は共に,  $(M_1, \pi(f))$  の上の  $E_0(M_1, p_1, GL_1)$  の transverse projectable connections で, Bott の strong vanishing theorem が成立つから,  $\Delta_{[\frac{q}{2}], r}(\omega^0)$  および  $\Delta_{[\frac{q}{2}], r}(\omega)$  が定まる. 補題 2.1 によって,  $\omega^0$  はリーマン接続だから,  $\lambda_{[\frac{q}{2}], r}(\omega^0)(\theta_j) = 0$  となり, したがって,  $\Delta_{[\frac{q}{2}], r}(\omega^0)[\gamma] = 0$  となる.

$$\Delta_{[\frac{q}{2}], r}(\omega) = [\lambda_{r, r}(\omega)(\gamma)] \neq 0.$$

証明終

$\pi \in M$  の上の codimension  $q$  foliation とする.  $(M, \pi)$  上の, foliated principal  $GL_r$ -bundle  $E(M, p, GL_r)$  における, transverse projectable connection  $\omega$  に対し,  $W\Omega_{[\frac{q}{2}], r}$  の 2 サイクル,

$$\gamma = c_{i_1} \cdots c_{i_s} \otimes h_{j_1} \wedge \cdots \wedge h_{j_m}$$

$$1 \leq i_1 \leq \cdots \leq i_s \leq s = \min([\frac{q}{2}], r), \quad 1 \leq j_1 < \cdots < j_m \leq l \quad (j_\beta \text{ は奇数}),$$

をとるとき,  $2(\sum_{k=1}^s i_k + j_1) > q+1$  なるものは, 対応する 2 次特性コホモロジー類,  $\Delta_{[\frac{q}{2}], r}(\omega)[\gamma]$  は  $\omega$  のとり方によらない ([2]) が,  $\gamma$  の 2 サイクルの条件  $2(\sum_{k=1}^s i_k + j_1) > q$  だけでは, 例えは  $\gamma = c_1 h_1$  で,  $q = 2r+1$  のとき,  $\Delta_{[\frac{q}{2}], r}(\omega)[\gamma] = \Delta_{r, r}(\omega)[\gamma]$  が,  $\omega$  のとり方によって異なることを, 定理は示している.

## 文 献

- [1] R. Bott, Lectures on characteristic classes and foliations, Lecture Notes in Mathematics, 279, Springer-Verlag,

Berlin-New York, 1972, 1-76.

- [2] H. Suzuki, Characteristic classes of foliated principal  $GL_r$ -bundles, Hokkaido Math. J. IV (1975), 159-168.
- [3] W. Greub, S. Halperin and R. Vanstone, Connections, curvature, and cohomology, Vol. I, Academic Press, 1972.